

氏名	片 木 幸 恵		
授与した学位	博	士	
専攻分野の名称	医	学	
学位授与番号	博 乙 第 2777 号		
学位授与の日付	平成 6 年 6 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)		
学位論文題目	気管支喘息患者における減感作療法の作用機序に関する研究 —抗原特異的IgGサブクラス抗体とロイコトリエン産生能に及ぼす影響について—		
論文審査委員	教授 中山 睿一	教授 太田 善介	教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

減感作療法の作用機序を明らかにするために、ダニをアレルゲンとする気管支喘息患者のうち1年以上ハウスダストによる減感作療法を続けている症例を対象とし、血清ダニ特異的IgGサブクラスをELISA法で、末梢血白血球のロイコトリエン (LT) 産生能をHPLCにより測定し、臨床効果との関連を検討した。

1. 減感作療法が有効であった症例では、ダニ特異的IgG₄抗体の有意な増加およびダニ特異的総IgG、IgG₁抗体の減少が認められ、従来いわれている様にIgG₄抗体が遮断抗体として働くほかにIgG₁抗体も何らかの働きをしているものと推測された。
2. 末梢血白血球のLTB₄、LTC₄産生能はCaIに対しては一定の傾向が認められなかったが、減感作療法が有効であった症例ではダニ抗原に対していずれも有意な産生能の低下が認められた。化学伝達物質であるLTの産生能の低下は減感作療法の作用機序に関連しており、しかも抗原特異的であると推測された。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、気管支喘息患者における減感作療法の作用機序を研究したものであるが、有効例で抗原特異的にIgG₄抗体の有意な増加および末梢白血球のロイコトリエンB₄およびC₄の産生低下を認めている。これらは、減感作療法の臨床効果の機序について重要な知

見であると考え、価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。